

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

発生予察情報の送付について

病害虫発生予察特殊報（第 2 号）を下記のとおり発表したの送付します。

令和 5 年度 病害虫発生予察特殊報（第 2 号）

令和 5 年 12 月 5 日

愛 媛 県

病害虫名 ミナミトゲヘリカメムシ *Paradasynus spinosus* Hsiao

作物名 カンキツ

特殊報の内容 愛媛県におけるカンキツ加害の初確認

1 発生経過

令和 5 年 10 月に松山市伊台地区のカンキツ園において、チャバネアオカメムシ等通常の果樹カメムシ類と異なるカメムシが多数寄生する状況が見られた（写真 1）。このカメムシは果実を吸汁しており（写真 2）、加害された果実は異常着色や落果が見られた（写真 3）。また、加害された果実を切断すると、通常の果樹カメムシ類に加害された様なス上がり症状も確認された。このため、神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、本県ではカンキツ加害が初確認となるミナミトゲヘリカメムシであった。

2 他県での発生状況

本虫は南方系のカメムシで、沖縄県や九州、三重県でカンキツ果実を加害することが報告されている。また、福岡県ではカキやスモモ、鹿児島ではアボカドでの加害も報告されている。加害されたカキでは、加害部位が半透明になり、後に大きく凹んでその部位が黒褐色となって落果するが、一部の被害果は落果せずに樹上に残る。加害部位には口針鞘が残り、剥皮すると果肉は褐変しているが、スポンジ状とはならず、通常の果樹カメムシ類とは異なる症状を示すとされる。

3 本種の特徴

体長は 16～23mm の細長い大型のカメムシでオオクモヘリカメムシに似るが、前胸部の側角が鋭くっており見分けられる（写真 4）。背部は暗緑色、腹部は淡黄緑色をしている。野外での寄主植物はシロモジ、クスノキ等のクスノキ科植物である。越冬場所や年間の発生回数など詳しい生態は不明だが、沖縄では 2 回程度発生する。

4 防除

ネオニコチノイド系薬剤のスタークル／アルバリン顆粒水溶剤や合成ピレスロイド系薬剤のテルスター水和剤の殺虫効果が高かったとの報告があることから、発生が認められたら、カメムシ類に登録のあるこれらの薬剤を用いて防除を行う。薬剤散布にあたっては、最新の情報を確認し、使用基準を遵守する。



写真1 みかんに寄生する
ミナミトゲヘリカメムシ



写真2 みかンを吸汁する
ミナミトゲヘリカメムシ



写真3 ミナミトゲヘリカメムシの加害による異常着色及び落果状況（10月1日撮影）

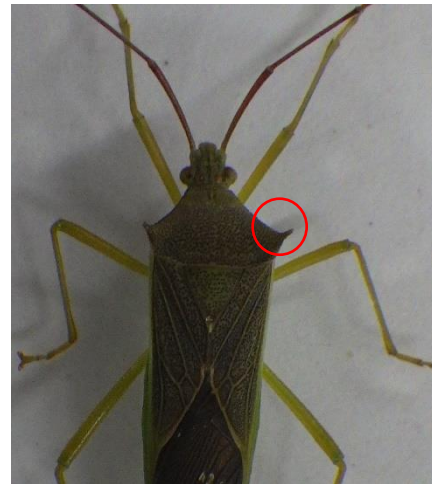


写真4 ミナミトゲヘリカメムシ
（前胸背側角のとがり）